



富士山信仰に基づいて建てられた全国の浅間神社に祭神として祭られている「木花開耶姫命」は、「火の神」であり「水の神」でもあります。これは、太古の昔から噴火を繰り返し、天変地異と天災を及ぼす荒ぶる山・富士山に対しての鎮魂の願いと、地域の人々に命の水を供給する恵みの山・富士山に対しての感謝の気持ちが進められています。日本の年平均降水量は1700ミリですが、富士山では2860ミリと推測されています。つまり、日本の平均の1・7倍近くの雨や雪が降っていることとなります。こうし

「水の神」としての信仰

枯渇する湧水現状把握を



渡辺豊博さん

た雨や雪の恵みを受けた、富士山の湧水量は1日当たり534万リットルと推計されています。1人1日400リットルの水を使うとすると、1日当たり1340万人分の水を富士山に蓄えているのです。富士山の周辺には山梨県内に100カ所、静岡県内に400カ所の計500カ所の湧水地があるといわれています。都留文科大学がある都留市の十日市場・夏狩地区の湧水群も、環境省が選定した「平成の名水百選」に選ばれました。市内には一年中豊かな清らかな湧水が網の目のよ

うに流れ、水生植物のバイカモが水中で白いかれんな花を咲かせています。

都留市の太郎・次郎滝では、噴火の痕跡が何層にも重なり合っている30近い崖の各層から湧き水が噴出して、

迫力ある水のカーテンを形成しています。世界遺産に登録された「白糸の滝」にも見劣りしません。地質学的にも水

理学的にも自然環境学的にも世界遺産としての価値を十分に備えた貴重な場所です。

しかし、滝の付近には多くのゴミがたまり、湧水が流れる多くの川には配水管から雑排水が流れ込んでいます。近年、富士山周辺でも林業者や

農業者の高齢化によって水源林が放置され、森づくりが停滞し、企業による宅地開発や

水源林の集中伐採が進んでいます。湧水地に対する地域住民の意識は離れ、利用者は減少しています。湧水地の枯渇や改廃、埋土、売却などが潜在的に拡大しています。

歴史的な霊水で古くから北日本富士浅間神社の神水として引き水された「泉瑞」が、8年ほど前から枯渇してしまっことはご存じでしょうか。原因としては、上流部での水源林の伐採や湧き水のくみ上げなどが考えられますがはっきりしません。水神様を祭る神事も次第に衰退し、水の山としての文化や歴史、風習、祭事が姿を消し、地域コミュニティの「心」のよ

りどころが次第になくなってきています。私は、2008年から、富士山周辺の湧水地のうち、150カ所の調査を実施してきました。多くの湧水地は現存していましたが、現場は草に覆われ、ヘドロが滞積し、水神さんも朽ち果てていました。農業用水や飲料水の水源の役割も失われたことから、地域から忘れ去られた存在になっていました。

「水の山」としてあがめ、湧水を大切に守り育ててきた先人の思いを、今の私たちは的確に継承していると言えるでしょうか。今後、湧水は石油より上位の国家的な資源になると思います。「命の水」を守っていくために、富士山の湧水の豊かさに甘えず、各地に点在する湧水地や水源林の現状を把握し、問題点を認識して水を育む森づくりや水源対策などの取り組みが進むことを望みます。

わたなべ・とよひろ
都留文科大学教授